

## 総務常任委員会 閉会中の調査報告

日 時	平成 29 年 4 月 26 日(水)9:29～11:59
場 所	湖南省役所東庁舎4階第1委員会室
出席者	菅沼委員長、鶴飼副委員長、松山委員、堀田委員、上野委員

議事案件	財源確保の調査研究について
説明者	総務部、税務局、建設経済部
説明概要	現在所有の市有地リスト(主だったもの)について各部局から説明。また使用料、手数料、広告収入について各部局から説明。
主な 質疑応答	<p><b>問</b> 地域創生推進課の市有地に集会所計画予定地が複数存在しているが、各地域においてその認識はあるのか。また計画として進行しているのか。</p> <p><b>答</b> 具体的計画は現在ございません。集会所予定地の存在は再度区にお伝えし、必要か否か確認を進めていきます。その上で、計画維持なのか処分なのか対応を考えていきます。</p> <p><b>問</b> 三雲駅前の市有地は現在までどのように動いて来たのか。今後の活用はどう考えているのか。</p> <p><b>答</b> 福祉ゾーン計画やビジネスホテル関係からの問い合わせなどもあったが、現在は駐輪場や駅前ロータリーの建設などで進行中です。終了には2年ほどかかります。この2年間で具体的利用方法を考えていきます。</p> <p><b>問</b> 三雲駅前は大きな投資を行っているので、相応の計画が必要ではないか。市民の意見も取り入れて進めるべきではないか。</p> <p><b>答</b> 総合政策会議などで意見をもらっていますが、7500 m<sup>2</sup>の活用方法には区画割も必要にもなり、今後2年間で公募を行うなど具体的計画が見えるように努力をします。</p>
まとめ	財源確保のため新税の導入も視野に入れているという現状の中で、少しでも市有財産の活用が見えないか説明を求めました。三雲駅前の活用には意見が多く、長年の放置が原因であると思われます。現在進行中の事業が終了する2年後には具体計画を作成すると返答がありました。また、他の市有地でも計画未定のために活用できていない土地も多くあり、見直しを行い判断していくと返答がありました。使用料、手数料、広告収入についても財源確保のため、小さい財源であっても出来る限りの努力を進めると返答がありました。増税しか財源確保が出来ない状況になる前に市として努力を重ねる返答が得られたことは、大きな成果には繋がらずとも意識の変革に一石を投じたように思います。

議事案件	デマンド交通について
説明者	総務部
説明概要	市としてデマンド交通システムの導入を検討している段階であるが、今年度からのまちづくり協議会交付金事業では項目のひとつとしてデマンド交通の調査を挙げております。現在、興味を示して頂いている地域は水戸学区です。
主な 質疑応答	<p>問 各協議会それぞれに上限 30 万円の交付なのか。調査等の経費とあるが、実施には程遠い金額ではないか。</p> <p>答 各協議会に 30 万円上限となっています。デマンド交通の失敗例として利用者とのズレが挙げられており、まず地域ごとにニーズの把握が大切であると考え実施に至っています。</p> <p>問 地域ごとの調査研究としているようであるが、市全体でのデマンド交通をどのように考えているのか。</p> <p>答 現在運行中のコミュニティバスとデマンド交通では住み分けをして確立できるように考えています。</p> <p>問 コミュニティバス事業の規模は現状維持で加えてデマンド交通を行っていく方向であるのか。</p> <p>答 住み分けを行うので、現状維持ではなくなると考えます。</p> <p>問 甲賀病院行のバスを試験的に実施されましたが、結果をふまえての今後は。</p> <p>答 まち協でのデマンド交通調査研究でも医療機関への交通手段なども調査内容に含めて実施して頂けるようお願いして参ります。</p>
まとめ	一度実施した市民サービスは廃止しづらいものがあり、行政としても慎重にならざるを得ない現状であると考えます。今年度、まちづくり協議会でのデマンド交通調査研究が今後の公共交通のモデルとして確立されるよう期待します。

議事案件	事業評価の反映について
委員協議	事務事業評価の答申に、「検討をおこないます」、「啓発をおこないます」、とあるがその結果や詳細について再度説明を求めていく。

議事案件	専門的な事業に対する有識者の活用について
委員協議	議会事務局とも相談を行いながら、取り入れ方を検討していく。